



綾部市未来まちづくり市民ワークショップ



実施報告書

(1) 実施の目的

より良き綾部の未来につながる充実した総合計画、総合戦略の作成を目指して、主に次の3点を目的に実施しました。

- ①総合計画等の作成への市民・行政の関心を高め、多様な知恵を集める
- ②綾部市の行政施策や現状について理解を深める
- ③綾部市未来まちづくりに主体的に参画する人々の思いを引き出し、つながりをつくる

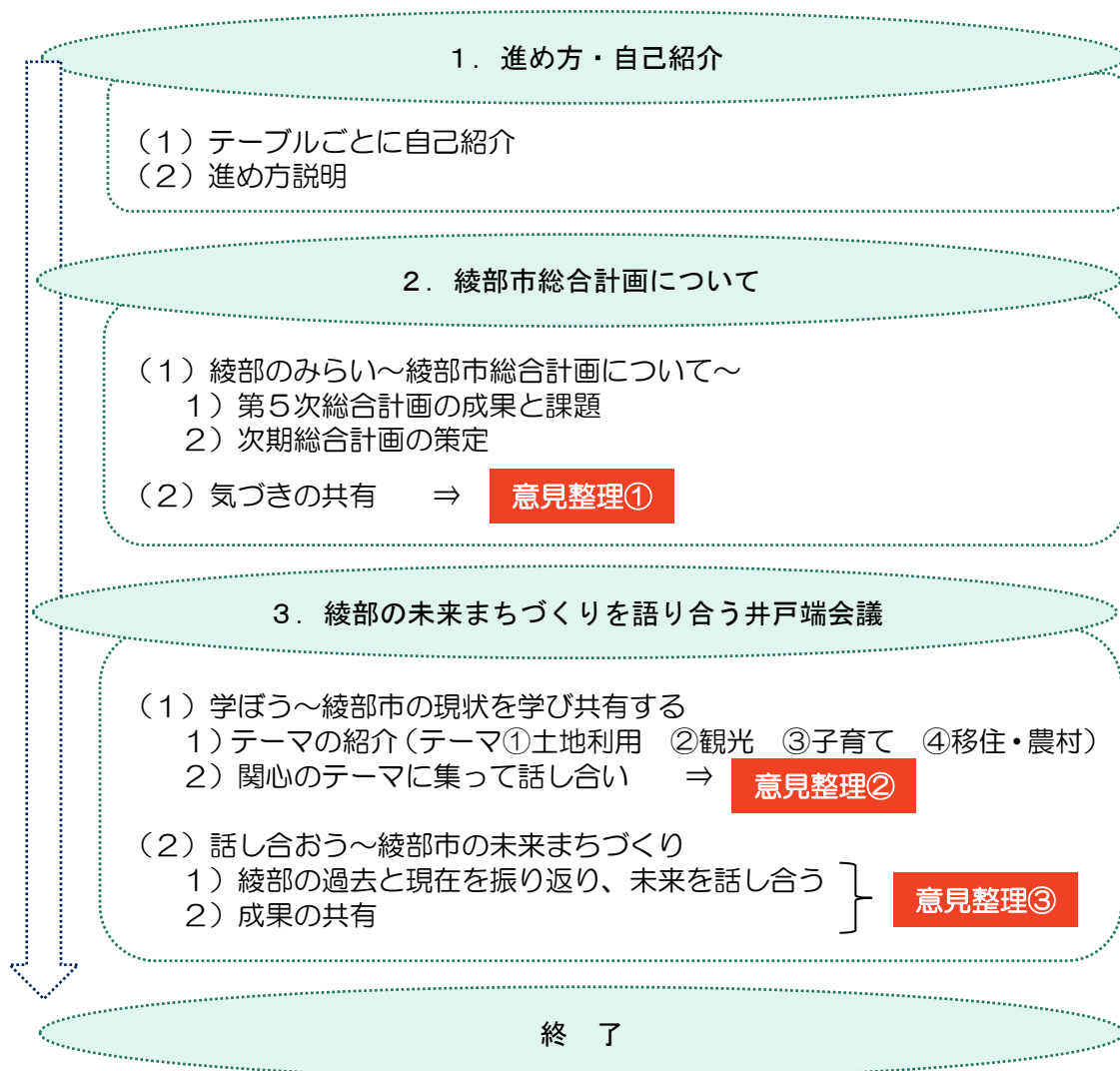
(2) 開催の概要

日 時：令和元年11月28日 18:00~20:30

会 場：綾部市ものづくり交流館（北部産業創造センター）

参加者：55人（公募20人、自治会連合会関係21人、市・府職員14人）

(3) ワークショップの流れ



(4) ワークショップの意見整理

① 綾部市総合計画に関する気づきの共有における主な意見

綾部市総合計画についての説明を踏まえた、参加者の意見は次の通りです。

分類	主な意見
総合計画 全般	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで知らない取組が多かった。勉強しないといけない。 ・総合計画の冊子は厚みがあるので読むことがない。 ・5年×2の10年計画は期間が長すぎる。2～3年区切りでテンポよく見直しや軌道修正を行うべき。10年という長期間の計画では、後半は時代錯誤な政策ばかりになるのでは。計画に囚われて、時代の流れに乗れなくなるのでは。 ・重点課題への対応としての取組は分かるが、綾部市の最終目標は何か分からない。 ・総花的になり、他市と同じような内容になる。どうせ作るなら1つか、2つ、少しでもいいので綾部ならではの独自性が必要。 ・計画の範囲が広すぎて分かりづらい。自分が分かる内容もあるので、それぞれの専門分野の方で的をしぼり、具体的に掘り進めて行く（計画を立てる）方がいいのではないか。
人口	<p><人口減少></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来が不安（人口減少など）。 ・人口減少が食い止められていない。結果がでていない。 <p><転入・転出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ターン者が増えていることを実感。 ・中上林に住まわれる方が多い。奥上林有安自治会にも、2家族来てくれた。子どもと一緒に来てくれると、地域も若返り活性化する。綾部に来てよかったと言ってくれている。 ・子どもは都会へ出て行っており、帰って来いとは言えなかった。 ・工業団地は埋まっているが、従業員が実際に住んでいるのは福知山や舞鶴。その理由を掘り起こさないといけない。 ・工業団地の従業員の意見「水洗化できていない、住むところ（マンション）がない」。結果、多くの人々が福知山や舞鶴から通勤している現状。 <p><定住></p> <ul style="list-style-type: none"> ・綾部市外から入ってくる人に対しては移住サポートがあるが、綾部市内間での移住（引っ越し？）に関してはサポートがないので、綾部に居続けるための仕組みも必要では。 ・定住施策にさらに力を入れてほしい。 ・地域の文化になじんでもらわないと難しい。 ・移住・定住は、実績が出ているが、入ってきた人の中でも、やっぱり定住できず出ていかれた人はいるのではないかと。それはどのくらいいるのだろうか。 ・田舎を求めてくる人ではなく、通常の人がずっと住みたくなる定住が必要。 ・定住の成果が出ているのはすごいこと。岡安町には20代で子どもが2人いる世帯が来てくれたが、市の定住支援住宅の制度では3年で出なければならず、せっかく来てくれたのにという思いがあり、事業と地元の気持ちがかみ合っていない部分がある。
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に道路（府道、市道）がすぐ通れるようになったのはよいが、見えないところで現状復旧できていないところがまだまだある。 ・高齢者の交通手段が不足。（フロンティアも運転手が不足）

分類	主な意見
都市計画	<ul style="list-style-type: none"> 綾部駅北整備がすごい勢いで進んでおり、財政がついていけるのか心配。 線引き廃止したが、農地転用が通らない。 定住促進を頑張っているが、ハード面の細かい整備ができておらず、成果を出そうにも障害が多い。市としてどのように考えているのか？
市民参画	<ul style="list-style-type: none"> 綾部市はやはり人の力。 若い人も綾部市のことを考えているが、吸い上げることができていない。 女性（子育て世代）の声を聞くべき。今日も、男性が大半。 子育て世帯に来てもらい、地域の仕事に加わってほしい。 村用、神社、寺の役にも加わってもらわないと人手不足。 後継者不足。後継者がいても育てられない。
交流	<ul style="list-style-type: none"> 文化発表をする場所など高齢者が集まって交流する場がなくなった。 中小規模のイベント（市主催、地域主催にかかわらず）があちこちで点在している。一緒にやれば、人も経費も削減したうえで、大規模で盛り上がるものができるのでは。
教育	<ul style="list-style-type: none"> 東京から綾部に移住してきたが、子どもが小学校で志賀郷の米の収穫体験をし、その美味しい米を給食で食べることができており、感謝している。 給食が全校自校調理なのは驚き。温かいごはんが食べられるのは素晴らしいこと。 定住推進には、小学校が無いと厳しい状況になる。子どもを小学校へ通わせるのは、第1の定住条件。今後もできる限り複式学級をつくらないで単式学級を維持してほしい。
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 川の氾濫など災害復旧のことも想定して計画することが必要。 洪水対策（内水処理）として、どのくらい処理ポンプを作るのか。それで間に合うのだろうか。 財政難と出ていたが、災害対策（内水対策ポンプ等）はしないといけないこともあり、難しい問題。 7月豪雨等による財源不足で地域からの要望がほとんど通らず、図書館の計画をはじめ多数の計画が頓挫し、活力の部分が乏しくなっている。
農業	<ul style="list-style-type: none"> 綾部の米は美味しく人気があって不足しているのもっと作ってほしいとJAさんは言うが、作っても安価。肥料や農地の維持管理費が高かきかむ。 大規模農家ではないので零細で農作物を作るが、道の駅が少なく出荷できる店が2～3（グンゼスクエア、アスパ等）しかない。出店の制約も厳しく零細農家には出品できない。 農業が大切と言いながら、田畑の荒廃地が増えている現状。
しごと	<ul style="list-style-type: none"> これを目当てに綾部に来る、というような魅力ある職が少なく、就職はUターン者や京都大阪などの都市の仕事は選ばないという人中心になってしまう。
公共料金	<ul style="list-style-type: none"> 水道料金は、ほんとに適正なのか（高すぎる）。東京の3倍くらいある。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画などを、策定したことを市民に積極的に知らせているのか。情報発信不足ではないのか。 子ども世代が住みやすいことを売りにしてPRを。 さまざまな取組や補助があっても掴みきれない（情報が入手しきれない）。 綾部市は「田舎暮らし住みたいまち」のランキング上位にあるが、知名度も高くないのに上位にきている理由が知りたい。それが分かれば、綾部市の強みが知れる。

②綾部の現状の学びにおける関心のあるテーマに関する主な意見

参加者が4つのテーマ（土地利用、観光、子育て、移住・農村）から関心のあるテーマを選択し、市職員、民間の代表者からそれぞれ取組等の説明を聞いた上で出された主な意見は次の通りです。

テーマ	主な意見
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・綾部駅南に空き家・空き地が増えている中でその再開発の視点も必要では。 ・商店街はネットによる販売が主流となり、店舗型は少なくなってきた。 ・綾部駅北の集約化は大切だが、駅南との格差やそれ以外のエリアとの格差が広がるのでは。 →都市機能を集約した場合に、公共交通などネットワークの充実が不可欠 ・舞鶴港や3つのICを活用しながら、内陸型の都市開発を希望。 ・線引き廃止しても、農地法の縛りがあり相反する。 ・線引き廃止しても、工業用地に適した場所がない。 ・近隣市町との住み分け（福知山市や舞鶴市との兼ね合いも意識しながら、オリジナリティのあるまちづくりを）。 ・「工業地帯」「田園地帯」「居住地帯」など、エリアごとのまちづくりをしてはどうか。 ・既存の工業団地が完売しており、更には、高速道路が全線開通した結節点であるにもかかわらず、新たな工業団地開発予定はないのか。IC付近に物流拠点を。 ・都市公園がない。ある程度大きな公園が欲しい。具体的なイメージは、福知山市の御霊公園。 ・都市公園、スポーツグラウンドが少ない。スポーツの指導者やポテンシャルは高いのもったいない。
観光	<p><市民への綾部市の魅力等の周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドをしていると、綾部が立派なまちだと多くの方に言われる。綾部市の資源（歴史、独自性）を伝えられる市民が少ないので、綾部市民が綾部学を身につけることが大事であり、その人材育成が課題である。 ・綾部市民でも綾部のことを知らない人がたくさんいる。綾部市のいいところを聞いたら全員が語れるような教育・人材育成が大切。 <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外の人知っているイベントを市内の人が知らないことがある（例：知らない車がたくさん止まっていて何かと思ったら実はイベントがあった…）。情報をもっと受け取りやすく、見やすい物にしてほしい。 ・綾部市は、来た人に対し綾部市をPRする「着地型観光」を進めているが、エージェントに向けての情報発信を市外向けにやっているため、市民には情報が届いていない可能性がある。市民もイベントに行きたい。 ・着地型観光の入口は、旅行会社や農家民宿等の個人経営者から、SNSなどのメディアでの情報発信となっている。 ・市の広報（HP・FBなど）は公的なイベントの情報ばかりで民間主催のイベントが全く載らない。欲しい情報にアクセスができないので、「市内外関係なく」「見やすく使いやすい」「営利・非営利、官・民すべてのイベント」の情報が集約された窓口やサイトが欲しい。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、観光目的が変わりつつある。以前は、団体でレクリエーション型の観光が多かったが、最近は、少人数あるいは一人で、一人一人がシビアな課題をもちながら、人生を見つめ直す観光や天職を探す観光となってきている。

テーマ	主な意見
子育て	<p><子育て情報></p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報がネットでもなかなか得られない。 乳幼児がいる家庭では、あちこち情報収集に移動できず子育てサークルや子育てイベントなどの情報を入手しづらい。月齢に合わせた子育てに係る情報などを一覧・マップにするなどの情報発信方法を検討してほしい。 情報がほとんど紙媒体であるため、どこかに行かなければ入手できない。しかし、産後間もない母親をはじめ、乳幼児連れでは情報収集のためにあちこち行くこともできず、そもそもどこにチラシ等が置いてあるのかわからない。そのため、行き場所がなく、ひきこもりがちになってしまう。 子育てサポート体制が見えづらい綾部市の現状を聞いて、SNSが普及する前は健診や習い事など外に出て情報を得てくるのが普通でしたが、今は情報化社会。色んな保護者や子育てパターンがあることを考えると、紙媒体や窓口での説明はもちろん必要ですが、インターネットによる細やかな情報発信により、様々な行政サービスを受けられるように間口を広げることも必要不可欠だと感じます。 行政からの情報が少ないせいで、奥さんが子育てしにくい、引きこもりになりそうっていうのは、男女共同参画から見ると時代逆行。子どもが小さい時、病気の時など外に出られない時ほど情報が必要です。奥さんができなければ、旦那さん、祖父母、みんなで情報収集して、付き添って一緒に行くとかサポートしてあげられるのが一番いいと思います。 <p><仕事と子育て></p> <ul style="list-style-type: none"> 男性が育児を日常的に行い、主体的になろうとしても、職場や世間の雰囲気や制度が「育児は女性のもの、男性は補助的な立場」という前提にあると感じる。そのため、男性の育休が取りにくく、保育のために男性が欠席するということがしにくい。その社会の仕組みを変えるために市や府が動いてほしい。 女性が働きやすい環境を行政から働きかける（個人の意識だけではなかなか変わらない。） <p><子育て支援全般></p> <ul style="list-style-type: none"> 国が取り組む子育て環境の整備はどの自治体でも行っているため、子育て世代に選んでもらえるよう特色ある取組を行う視点が必要。 近隣市と似たり寄ったりの制度。特徴（良い点）がなければ人口はUPしない。 保育料無償化、子育てサークルへの補助、地域の高齢者世帯との交流会への補助等、国府の制度を利用し、市の単独制度（入院・通院費の助成）も合わせて、府と連携して、仕事と子育ての両立支援、保護者支援（ファミリーサポートセンター）など、妊娠～子育てに『切れ目のない』、『きめ細やかな』支援を。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと教育」と「キャリア教育」の違いがわからない。
移住・農村	<p><移住・定住></p> <ul style="list-style-type: none"> 「移住立国」というワードで、「空き家」を重点に置いた移住プロジェクト。 国内の市町村で人口を奪い合うのではなく、世界（外国人）をターゲットにしてグローバルな視点から移住・定住を図ることが重要。 綾部定住サポート窓口の設置、綾部市の定住実績。（過去10年） 空き家バンク登録を増やす努力。 冊子「カモナヤベ」の発刊。（市民新聞と協力） <p><水源の里></p> <ul style="list-style-type: none"> 水源の里のはじまり、シャガ・ミツマタによる交流人口の増加。 これからの水源の里の担い手（後継者）が問題。

③綾部の過去・現在・未来に関する話し合いにおける主な意見

参加者が14のテーブルに別れ、「Keep（魅力）,Problem（課題）,Try（改善）」の3つの視点で、綾部の過去と現在を振り返り、未来を話し合っていた中で出された主な意見は、次の通りです。

<3つの視点「Keep（魅力）,Problem（課題）,Try（改善）」ごとの主な意見>

視 点	主な意見
Keep (魅力)	<p><取組等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの活用。 ・移住への施策。 ・ママサークル補助金。 ・安全・安心に対する取組。 ・「古い町並み」「自然」「駅周辺開発」と、良きものを残しつつ、駅周辺の賑わい創出など、バランスを大切にしまちづくりを。 ・「世界連邦都市宣言」や「綾部の文化」など、良きものは継承してほしい。 ・様々なイベントが官民間問わず行われている。 <p><自然環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然、田園風景、田舎であることのプライド。 ・綾部の自然は綺麗なので残していきたい。 ・高い自給自足率。 ・自然が豊かで、都市はコンパクト。 <p><人材・コミュニティ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・綾部のよさは「人」。人のよさをつなげていくことが大事なので、「綾部はよくなる」と口癖のように言っていくとよい。 ・地域コミュニティ（官民・市民同士のつながり・好ましい人間性・作業所祭り）。 ・水源の里の取組。 ・上林のような小規模校のつながりを大切にしないといけない。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おしゃれなカフェバー。 ・歴史ある宗教や企業、観光地がある。 ・交通の便はいいと思う。綾部からどこにでも行けるし、どこからでも綾部に来られる。
Problem (課題)	<p><施設等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化の発表場所がない。 ・綾部駅前に子ども向け施設が必要。 ・飲食店や娯楽が少なく、また、商店街の人通りが少ない。 ・若い人の需要を満たすお店や施設が必要。（少しでも便利な福知山、舞鶴を住まいに選ぶ人がいるとのこと。） ・人が集まる場所。 ・各地域レベルで、気楽に集まれる場所がない。 ・魅力のあるスポットや売りが少ない。（ドラッグストアのまち） ・ホテルあやべの跡地。 <p><産業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害、農地荒廃。 ・田畑事業への補助制度。 ・後継者がいないため会社をたたむところも多い。

視 点	主な意見
Problem (課題)	<p><人口問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者のサポート（思っていたのと違ったという方への対応）。 ・綾部市民が外へ出ていけないための方策がない（卒業生への情報発信など）。 ・農村部の急激な人口減少。 ・移住者を受入れるにしても空き家登録が少なく、選択肢がない。 ・空き家が年々増えており、倒壊や放火等の心配もあるので対策が必要。 <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が足りていない。 ・綾部市の魅力を発信する人材不足。 ・地元の人が綾部の良さを認識していない。 ・情報ターミナルが不足している。 <p><市の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の事業の硬直化 固定化 ・施策が一過性のもので終わっているものがあるのではないか。 ・災害対応（洪水対策・原発対策）について、もしも原子力発電所に何かあったら、綾部市は無事では済まないのではないか。災害が多発する中で豊かな綾部の自然を守っていけるのか。 ・綾部駅北側の開発をこのまま進めてほしい。 <p><交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車に乗れない人の足がない。 ・交通機関について、本数が少ない、公共交通カード使えない。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おとなしい人間性、革新性に弱い。 ・世代間や、移住者・市民間、各種団体間の温度差がある。 ・視覚公害（看板等）。 ・親から相続した土地や山林の場所、境界が分からない。
Try (改善)	<p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者への情報提供 ・綾部の広報力UP ・Iターン者など関係人口を通じた情報発信を ・WEBを使った情報発信 you tuber ・市民はもちろん、市外の方にも情報伝達でき興味を持ってもらえるような仕組みづくり。 ・綾部市を売り込むマーケティング担当をつくる ・市外のイベントに出向く、アンテナショップを期間限定で出すなど、情報発信力アップ。 ・一括して情報が取れるツール ・スマホで情報が収集できるように ・市のSNSの情報発信はフェイスブックのみ、インスタグラムやツイッターももっと活用できれば（すぐにでもできるのでは） ・市に限らず、市民一人ひとりがSNSであやべの良いところをどんどん発信できる取組ができれば、あやべのPRにつながる。 ・大きなイベントを通じて積極的なPRを ・それぞれの特技を持ち寄る場や、綾部のいいところについて発信する発信力が必要。（田楽学校はとてもよかった。） ・各自の特技を活用できる場づくりと情報発信

視 点	主な意見
Try (改善)	<p><人口問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移住立国」もひとつのキーワード（呼び水）に。 ・誰でもウエルカムという移住は変えていく。 ・空き家について、行政だけでは借りたい人の個別の要望となかなかマッチングできないので、委託等、個別交渉に対する成功報酬を払う（空き家交渉制度）など。 ・移住を考えるのは家族がいて一軒家がほしい人だけでなく、独身、学生等で移住先を検討している段階の人もあり、そういう人向けに一定期間、試して、安価で住むことが可能なようなシェアハウスがあるとよい。 <p><就業・起業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手起業家の育成 ・若者が経営できるハウス園芸 ・「手に職」というキャリア形成一都会の大学に行かなくても働いていける。 ・資金集め（クラウドファンディングなど） <p><農業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業機械シェア・マッチング ・綾部の農業の10年後の担い手の確保 ・耕作放棄された農地の管理等の対策が必要。 ・京都・大阪・神戸への農作物の共同出荷 ・市主催の農家の地産地消アピールの会 ・高校や大学を誘致。上林の田畑の荒廃地が増えているので、農学部を誘致して、綾部の農村で農業実地研修してもらおう。定住する若者もでてくるかも <p><観光></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分りやすい観光パンフレット ・観光場所の維持管理 ・観光客（インバウンド）目線で景観づくり <p><イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラシックカーフェスティバルの開催 ・行事の統一化によるグレードアップ ・若者を中心としたイベントの開催を（なくなった夜祭？など）。 <p><施設整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京セラ前に展望台を ・小中学校運動場を芝生に ・上杉総合運動公園をもっと魅力的に ・どうせなら福知山・舞鶴にないお店ができて、お互い行き来できるようになるとよい。また、チェーン店は地元仕入れしないので、できれば地元重視のお店の方が地域でお金が回る。 ・都市部村部を問わず排水路の強化 ・お母さんサポートセンター <p><地域コミュニティ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが活力をもってボランティア活動に取り組めることで市全体が盛り上がり、あやべの住みやすさにつながる。 ・自治会内では交流が活発だが、となりの自治会の祭りには参加しにくい or 行かない。もっと一体となることができるような交流があれば。 ・高齢者や子どもや親が誰でも寄って相談できるような場づくり ・草刈り等の助力 ・持続可能な里山の活動

視 点	主な意見
Try (改善)	<p><安心・安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害情報はよく届くが避難方法がないので、バスを走らせることも必要。 ・災害に強いまちづくり <p><まちづくり全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて楽しむまちづくり ・外国人受け入れ ・中心部に住民を誘導。エリアごとに特色をつける（子育て重点エリア等） ・綾部駅南側が寂しいので再開発が必要。 ・綾部初のことに特化するとよいのでは。 ・綾部の里山の風景（水源の里等）等から連想される「平和都市」を前面に出していくのがよい。 ・「綾部学」を定着させる。これからの綾部を考えるに当たっては、やはりこれまでの綾部を知ることが大事。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グンゼ創始者の大河ドラマ化 ・「将来良くなる」との口癖を
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・綾部市のことをよく知らなかったことを再認識した。 ・もっと勉強しないといけないと思った。 ・1ターン者と高齢者のパワフルさが分かった。 ・マクドナルドや最近できたココス（東舞鶴に有り）に結構来客があることから、とにかく地元の人が喜ぶお店が必要だという意見だった。チェーン店でなくていいが、牛丼・ハンバーガーが食べたいと思った時に、気軽に行ける店があるかないかが重要。 ・子育て施策は生まれてからの取組だが、子どもを産むことのきっかけになるのか。 ・この話し合いが計画にどのように反映されるのか、記録されるわけではなく、市民と話し合ったというアリバイづくりで終わると残念だ。

<14のチームごとの意見一覧>

チーム1

<keep>

- ・高い自給自足率
- ・田園都市
- ・好ましい人間性
- ・官民や市民どうしのつながりが太い
- ・作業所祭り南部
- ・地域コミュニティ
- ・移住立国情報発信

<problem>

- ・災害対応 自然を守れるか
- ・交通機関
- ・災害対策
- ・公共交通カードが使えない
- ・大人しすぎる 革新性に弱い

<try>

- ・市民ボランティア活動の活性←綾部ドリーム強化
- ・企業支援の活性←綾部ドリーム強化
- ・安定・メリハリのある行政支援
- ・住みやすさにつながる
- ・「綾部学」を完全定着させる
- ・自治会/町内会同士の交流
- ・情報発信 SNS

【特に大切なこと】

- ・try について、「綾部学」が本当に大切と思う。綾部のことを何も知らない人が多い。でもそれは、教わってないから知らないのだと思うので、「綾部学」大事にしてほしい。



チーム2

<keep>

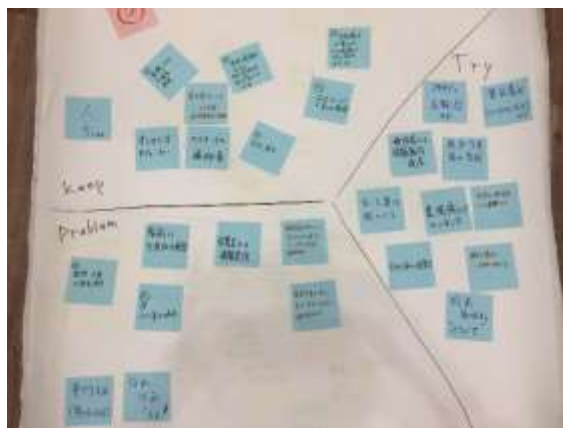
- ・人・力がある
- ・芸術文化の発表場所
- ・オシャレなカフェバー
- ・空き家バンクの活用 自治会単位での管理
- ・ママサークル補助金
- ・役所の範囲外なれど文化芸術を中心とすることも大事
- ・生活様式が変わるが、人との交流できる場所も大切
- ・文化グループが集える場所

<problem>

- ・芸術・文芸の発表場所
- ・駅前に子ども向け施設
- ・店・人が集まれる場所
- ・卒業生への情報発信
- ・移住者のサポート 思っていたのと違ったという方への対応
- ・綾部市民が外へ出ていかないために何をするのか
- ・実行する人（男の子になる）
- ・なあなあになる

<try>

- ・綾部の広報力 UP
- ・資金集め（クラウドファンディング）など
- ・移住者への情報集約提供
- ・若手企業家の育成
- ・歩いて楽しむまちづくり
- ・農機械シェア・マッチング
- ・外部から来て企業との連携
- ・綾部の農業の10年後の担い手
- ・京セラ前に展望台
- ・将来良くなると“くちぐせ”



【特に大切なこと】

- ・綾部はやっぱり人だが、人の良さを発信するのが下手、人のよい遺伝子をつなげていく。
- ・綾部がよくなるということ、口癖のように言う、そうすれば綾部はよくなる。

チーム3

<keep>

- ・子育てサークル
- ・学校給食
- ・ふるさと教育
- ・小規模校のつながり
- ・高齢者のパワーの活用
- ・定住施策

<problem>

- ・ドラッグストアが多い
- ・地域の担い手不足
- ・子育て各支援策は子を産もうと気にするのか
- ・人口減少、子どもの減
- ・魅力スポットが売り少ない

<try>

- ・移住者の受け入れ
- ・大きなイベント
- ・新しい定住者の風
- ・食文化の向上
- ・情報発信ツールのうまい活用
- ・地域のバランスコンセプト
- ・オリジナルな子育て施策
- ・移住者を使った外への発信



【特に大切なこと】

- ・Keepに関して、「小規模校のつながり」があがった。地域の子どもを、地域のみinnで見守るという考え方を持っており、学校のイベントのたびに地域の方みんなに来てもらっている。そういった取組を続けていってほしい。

チーム4

<keep>

- ・ 都会の人にとって魅力がある
- ・ 田舎であることにプライドを持っていること
- ・ 定住空き家バンク
- ・ 自然（田園風景）
- ・ 安全安心に対する取組（意識）

<problem>

- ・ 情報発信が足りていない
- ・ 綾部の復活！今暗い
- ・ 地元の人が綾部の良さを認識していない
- ・ 地域のしきたり自治会
- ・ サル、イノシシ、シカ、カラス等の被害
- ・ 農業をしない人
- ・ 急激な人口減少（農村部の）
- ・ 農地荒廃
- ・ 車の乗れない人の足ない

<try>

- ・ クラシックフェスティバルゲンゼスクエア開催
- ・ 農家の地産地消のアピールの機会（市）
- ・ 若者が経営できるハウス園芸をする
- ・ 行事の統一化によるグレードアップ
- ・ 東京・大阪・神戸への農産物の共同出荷
- ・ 分かり易い観光パンフレット
- ・ マーケティング担当を作る
- ・ 府道1号のバイパス化による人の流入
- ・ 商売（特に飲食）

【特に大切なこと】

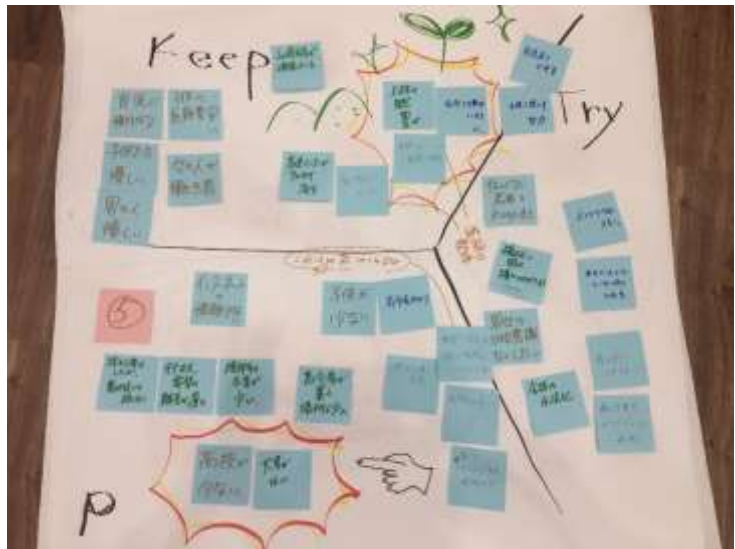
- ・ tryについて、農業はちゃんとやれば儲かる。
- ・ 空き家がなぜ埋まらないか、若い人が農業大学校を出ても就職先がない。元気な人が集まる仕組みをつくれれば、意外とうまくいく。



チーム5

<keep>

- ・育児に積極的
- ・子ども達やさしい
- ・男の人優しい
- ・子どもの医療費安い
- ・女の人が働き者
- ・山崎市長が頑張っている
- ・高速インターが3か所ある
- ・食べ物がおいしい
- ・上林の自然豊か
- ・自然の資源がある
- ・自然を大切にする



<problem>

- ・インターネットの情報少ない
- ・線引き廃止したが、農地法との板挟み
- ・行政要望の回答が遅い
- ・綾部市の予算が少ない
- ・高齢者が集う場所が少ない
- ・子どもが少ない
- ・高齢者ばかり
- ・綾部の良さを市民が説明出来てない→良さを伝えられていない
- ・性差別がある子
- ・規制が多い
- ・新ICチャレンジする環境がない
- ・高校が少ない
- ・大学がない

<try>

- ・定住者を増やす
- ・子どもを増やす努力
- ・住んでない若者を keep する
- ・道路の整備（「自然」「食べ物がおいしい」ことにつなげて）
- ・福祉に関して横のつながりを！色々な団体があるが、どうもバラバラ。
- ・人とのつながりを・・・。
- ・あやバスの入っていない所に入れる
- ・男女の分担意識なくしたい
- ・全体の水洗化
- ・夢を持つ子どもが育てば
- ・様々な業界がコラボできる環境

【特に大切なこと】

- ・自然豊かなところは綾部市の資源。しかし、うまく説明できる人が少ない。綾部学という意見もあったが。その原因は、大学がないから、綾部市から子どもが一離れてしまっている。市について知る機会が途絶えてしまうことが原因と思う。

チーム6

<keep>

- ・ 定住促進
- ・ 緑豊かな町
- ・ 空き家バンク
- ・ 自校給食
- ・ 荒廃地の利用、活用

<problem>

- ・ 高齢弱者の送迎（フロンティア） 軽5ナンバー
- ・ 獣害対策
- ・ 農業従事者の確保
- ・ 神社の管理（人手不足）
- ・ 交通手段あやバスの充実
- ・ 横一列な取組
- ・ 情報がとりにくい

<try>

- ・ 高齢化に対しての足の確保
- ・ 情報発信 SNS
- ・ JR 複線化
- ・ “手に職” 教育
- ・ 空き家交渉制度（委託）
- ・ 観光公園の管理整備
- ・ エコなまち宣言（もちろん実行）
- ・ 白タク制度
- ・ 大学の分校誘致



【特に大切なこと】

- ・ try、友人が綾部市への移住を考えたとき、たった一人のための家も見つからない状況だった。解決には、空き家を流動化させる、空き家交渉制度が必要。一人一人の持ち主と交渉して、空き家が貸し出しになった場合は、交渉者に報酬を払う制度を設けてはどうか。

チーム7

<keep>

- ・ 駅近くに図書館がほしいかな
- ・ 高速道路
- ・ イベント
- ・ 駅北側さらに開発
- ・ きれいな自然を、霧などがすばらしい
- ・ 交通の便
- ・ 自然の恵み、水、産物等

<problem>

- ・ 情報発信
- ・ 綾部への理解
- ・ 地域の為にどんな協力ができるのか？
- ・ ブランド力
- ・ 市民の関心の薄さ
- ・ 人材不足（若者、後継ぎ等）

<try>

- ・ 水害時の避難の仕方。協力は？
- ・ 駅南側再開発
- ・ 由良川の水がもっときれいになってほしい
- ・ 山林の事。受け継いだけれど、場所が分からない
- ・ 耕作放棄地の対策
- ・ SNS、口コミの利用
- ・ 新たな発信ツール
- ・ 空き家対策さらに対策
- ・ HP
- ・ 老人の交通対策
- ・ 人間、動物の住み分け



【特に大切なこと】

- ・ 空き家対策を進めてほしい。空き家対策の一環で、空き家調査の依頼があった。3年前からもかなり空き家の数増えている。特に農村部の空き家対策を進めてほしい。

チーム8

<keep>

- ・水源の里更なる取組
- ・地域力
- ・おいしい地元産品
- ・親切な人たち
- ・豊かな自然がある
- ・シニア世代が元気
- ・新しい住民が増えている

<problem>

- ・イノシシ、シカ、サル被害多い
- ・情報が得にくい
- ・子どもが少ない
- ・人と人のつながり。点と点の状態
- ・空き家がたくさんある
- ・情報発信
- ・今のトレンドを追う
- ・若い世代→人とのつながり避ける

<try>

- ・空き家管理（市との連携）
- ・災害に強く
- ・各自の特技持ち寄る場を作る
- ・高齢者子ども・・・誰もが寄れる場づくり
- ・一括して情報がとれる（今日どこで何が）
- ・広報誌の分かりやすい活用しやすいもの
- ・スマホで情報とれる



【特に大切なこと】

- ・try、綾部市民は奥ゆかしい。あまり自慢しないが、定住促進で来られた方は特技を持っており、そうした特技を持ち寄れる場があればいい、地域も盛り上がるのではないか

チーム9

<keep>

- ・古い町並み
- ・駅周辺の開発
- ・自然（守る）
↑上記3項目のバランス
- ・定住促進
- ・安心安全（平和な市）
- ・文化
- ・美味しい給食

<problem>

- ・情報収集
- ・facebook より分かり易く
- ・情報の共有
↑上記3項目「細かすぎ」「官民間わず発信力不足」
- ・車社会
- ・遊ぶ場所
- ・都市公園
- ・グラウンド不足（野球・サッカー）
- ・工業用地不足
- ・都市計画法⇄農地法
- ・もっと身近な田畑
- ・防災安全な避難
- ・各地域に市民がくつろげるスペース
- ・各地域に開かれた場所
- ・各地域に若者シニア共有の場

<try>

- ・綾部学のPR
- ・歴史を知る機会
- ・出向いてアピール
- ・都市へのPR（出向く）
- ・フリーペーパー
- ・文化・情報発信力UP
- ・オリジナリティ
- ・物流拠点3つのIC活用



【特に大切なこと】

- ・Tryについて、発信力大切に。遠慮しないで。ええとこいっぱいあるで！ええことしてる人もたくさんいること、もっと知ってもらおう。

チーム 10

<keep>

- ・ 移住への施策
- ・ 定住についてこれからもどんどん行っていく
- ・ 里山の風景
- ・ 田舎
- ・ 水源の里事業
- ・ 交通の利便性（結節点）
- ・ 人

<problem>

- ・ 上水道全域へ
- ・ シビックプライド
- ・ 田畑事業への補助制度
- ・ 市内交通弱者
- ・ バスの本数（自主交通）
- ・ 電車の本数が少ない
- ・ 視覚公害（看板等）
- ・ ジョウガイ問題
- ・ 利益をあげるのは悪という考え
- ・ 人口減少
- ・ 定住者への支援→働き口
- ・ 災害 国、府、市とも基準を見直すべきか

<try>

- ・ 食料通店
- ・ 草刈り等の助力
- ・ 持続可能な里山の活動
- ・ 観光場所の維持管理の重視
- ・ 観光客（インバウンド客）目線で景観づくり
- ・ 上杉総合運動公園をもっと魅力的にする
- ・ 都市部・村部を問わず排水路の強化
- ・ 古き良いものは残し

【特に大切なこと】

- ・ keep、里山の風景。
- ・ problem、視覚公害がある必要な看板もあるが無駄も多い、鳥獣被害防止のネットも自然に適したものを、獣害被害が解消出来たら、持続可能な里山も実現できる。



チーム 11

<keep>

- ・ 移住施策
- ・ みなさん前のめり
- ・ 交通の便が良い
- ・ コンパクトな都市
- ・ 歴史が長い大本教ゲンゼ
- ・ 観光に魅力がある
- ・ 様々なイベント
- ・ 官民がイベントを盛んに行う
- ・ 移住者のパワー
- ・ 自然
- ・ 自然豊か
- ・ シャガ



<problem>

- ・ 食べる所少ない
- ・ ごはん屋が早く閉まる
- ・ せっかくの商店街さみしい
- ・ まだまだ若者元気ない
- ・ 踏切が多い
- ・ 娯楽の少なさ
- ・ 遊べる場所が少ない
- ・ 情報のターミナルがないので気づかない
- ・ 企業支援
- ・ 観光地が少ない（あってもあまり知らない）
- ・ 市民は綾部の魅力が分かっていない
- ・ 一過性の客呼びで終わる
- ・ 多くの市民の頑張りが届いていない
- ・ 移住者と市民の温度差
- ・ 各種団体が協力する仕組み
- ・ 施策の出口見えてる？

<try>

- ・ 若者中心のイベントを！
- ・ 民間主導でインターネットを通して情報発信
- ・ 定住者からみた綾部
- ・ ゲンゼ創始者の大河ドラマ化

【特に大切なこと】

- ・ 娯楽・飲食店少ない。移住者のパワーはすごいけど、生粋のまち生まれの方はそうでない。
- ・ 若者中心のイベントができれば、若者からもっと情報発信していけるからいいと思う。

チーム 12

<keep>

- ・高規格道路の整備による近畿圏へのアクセスの利便性
- ・観光資源の多様化 近年の名所としてバラ園、ゲンゼ博物苑
- ・トクサンカン
- ・空き家バンク
- ・水源の里
- ・シャガ、ミツマタ

<problem>

- ・綾部の事を知らない（歴史や文化）
- ・イベント事業の固定化
- ・産業まつり内容（B級グルメ？）
- ・綾部市をプレゼンする人材不足
- ・若者が集まる場ない
- ・若者が満足する娯楽施設の不備
- ・交通の便

<try>

- ・子ども支援案内場
- ・お母さんサポートセンター
- ・情報発信
- ・外国人受け入れ
- ・YouTuber
- ・運動場芝生に小中学校
- ・各エリア分け
- ・中心部に人を誘導
- ・エリア分け学校/子育て
- ・コンパクトシティ化
- ・幼稚園市内全幼稚園に



【特に大切なこと】

- ・try3つ、情報発信にyou tuberを使う。
- ・子育てが重要、小学校の運動場を芝生に、子育て支援を強化。
- ・中心部に人を誘導する、その実現に向けてエリア分けをする（子育てに力を入れるエリア、教育に力を入れるエリア等）。

チーム 13

<keep>

- ・綾部の強み「水源の里」「世界連邦都市」「中東和平PJ」「大本数」
- ・綾部のメインは「平和都市」＝水源の里等世界初だ

○緑

- ・二番煎じは止める
- ・自然環境
- ・養蚕業ものづくり

<problem>

- ・都市公園の整備を
- ・地域間の格差顕著にならないか
- ・盆踊り大会、花火大会→中止すべき事すぐやめる、イベント等

<try>

- ・空き家が少ない
- ・上林の綾バスもう少し増やしてほしい
- ・綾部を代表する土産物を
- ・情報1括サイトの作成
- ・市民が綾部学を身に付ける
- ・ふるさと教育の更なる推進（Uターン）
- ・綾部発の事に特化すること
- ・公は民を圧迫していないか



【特に大切なこと】

- ・Keep・Tryの部分で、綾部ってどんなまちと聞かれても答えられない。いざ考えてみると難しい。国の進めている和平の内容にかけて、綾部のテーマは「平和都市」。これを掲げていくことがいいのではないか。

チーム 14

<keep>

- ・ 移住希望多い
- ・ 自然を守る
- ・ 一人当たり土地の広さ
- ・ ものづくり産業
- ・ 農産物ブランド

<problem>

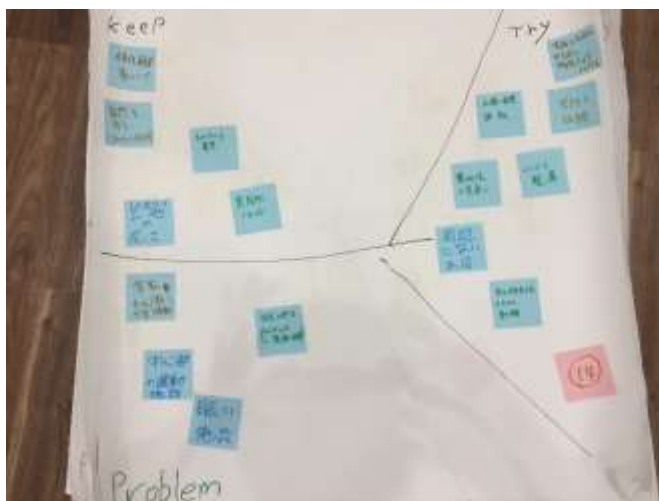
- ・ 空き家もっと必要（数と情報）
- ・ 中心部の運動施設
- ・ 賑わい施設
- ・ 自然を守る（環境整備が必要）

<try>

- ・ 若者のためのお試し移住シェアハウス
- ・ 工場企業誘致
- ・ 米作り体験
- ・ 農地法の見直し
- ・ インフラ整備
- ・ 周辺にないお店
- ・ 市の独自性をもった戦略

【特に大切なこと】

- ・ 空き家に関すること、移住希望者潜在的に多い、子育て世代だけでなく、それ以前の若者の移住促進として、シェアハウスなどを整備、将来的な定住につなげてはどうか



(5) ワークショップ結果からみる成果・課題等

①ワークショップ開催目的に対する成果

目的①「総合計画づくりへの市民・行政の関心を高め、多様な知恵を集める」に対する成果

- ワークショップ参加者に対し、綾部市総合計画について説明したことで、「これまで知らない取組が多かった。勉強しないといけない」といった市民の関心の向上につながった。
- また、次期総合計画の策定に向けて、「都市計画」「市民参画」といった分野ごとの取組に関する市民の考えを把握するとともに、総合計画のあり方に対しても「計画期間を検討すべき」「綾部ならではの独自性が必要」「冊子が厚く読めない」といった意見が出された。

目的②「綾部市の行政施策や現状について理解を深める」に対する成果

- 4つのテーマ（土地利用、観光、子育て、移住・農村）で市職員、民間の代表者からそれぞれ市の取組等の説明を行った。
- その上で、説明者も交えてテーマごとの意見交換を行った結果、多くの意見が出されており、市の取組に関する理解を深めることにつながった。

目的③「綾部市未来まちづくりに主体的に参画する人々の思いを引き出し、つながりをつくる」に対する成果

- 参加者が14のテーブルに別れ、綾部の過去と現在を振り返り、未来を話し合っていた結果、参加者から「綾部市のことをよく知らなかったことを再認識した」「もっと勉強しないといけないと思った」「1ターン者と高齢者のパワフルさが分かった」といった意見が出されており、市民のまちづくりへの主体性を引き出すとともに、これまで交流のなかった方同士のつながりづくりの場として、有意義なものとなった。

②ワークショップの結果からみる主な課題

課題①市内外への情報発信

- 「子育て」「観光」等分野に関わらず、市内外へ必要な情報が十分に届いていないことが指摘されている。必要な情報にアクセスするための「情報プラットフォーム」の整備、広く情報を発信するための「情報発信手法」の見直し・拡充など、様々な意見が出された。

課題②市民の綾部市の魅力、歴史・文化等の認識不足

- それぞれの話し合いの中で、「市民が綾部のことを知らない」といった意見が度々出された。「綾部学」というキーワードも出る等、綾部の良さを発信するにはまずは市民がその良さを認識することが重要という意見が多く出された。

課題③人口問題への対応

- 人口減少対策としての移住、そのための空き家の活用方法や受け入れる地域のあり方、また、移住立国である綾部ならではの移住者を選ぶべきといった視点など、幅広い意見が出された。

③綾部市の主な魅力

魅力①「人」

○それぞれの話し合いの中で、綾部市の元々の居住者の人柄の良さ、高齢者や移住者のパワフルさなど、綾部の魅力として「人」という意見が多く出されている。

魅力②「自然」

○綾部の魅力はやはり「自然」であり、こうした自然環境の良さを活かした移住促進、農業振興といった意見も多く出されている。

魅力③「綾部らしさ」

○「水源の里」「世界連邦都市」「中東和平プロジェクト」などが、他の自治体にはない綾部らしさであるといった意見が出されている。